

令和元年度 王寺町の決算

▶ 特別会計

	国民健康保険	後期高齢者医療	下水道事業	介護保険 (介護保険事業)	介護保険 (介護サービス事業)
歳入	23億8,467万5千円	3億7,372万9千円	7億9,231万1千円	19億2,544万7千円	471万3千円
歳出	23億8,410万6千円	3億7,162万8千円	7億9,089万円	18億5,180万2千円	426万8千円

▶ 水道事業会計 [王寺町の水道事業は、皆さんがお支払いする水道料金によって運営する「独立採算制」を採っています]

	収益的収支…①	資本的収支…②
収入	6億2,406万6千円	8,185万9千円
支出	5億5,886万6千円	2億8,970万6千円

水道の令和元年度業務状況

(給水戸数、給水人口は令和2年3月31日現在)

▶ 給水戸数	10,476戸	※有収水量は、料金の対象となった水量のことで、町民1人1日あたり平均0.27m ³ を使用したこととなります。
▶ 給水人口	24,129人	
▶ 有収水量※	2,362,866m ³	
▶ 1日平均有収水量	6,456m ³	

①水道事業等の経営活動により発生する収入(水道料金等)と、支出(県水受水費等) ②施設の建設、改良などに関する収入と支出

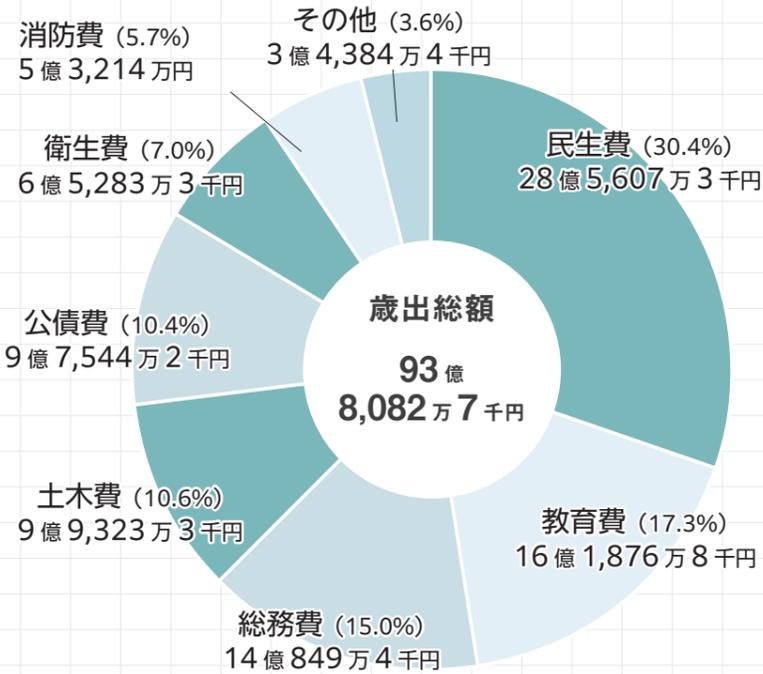
一般会計は、歳入(収入)が98億8,549万1千円、歳出(支出)が93億8,082万7千円で、翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支額は、4億9,757万1千円となりました。

令和元年度も引き続き、経費の節減や自主財源の確保に積極的に取り組んだ結果、一般会計において黒字決算となりました。

また、将来の資金需要等に備える町の基金は、令和元年度決算時において昨年度と比べ、3,537万8千円増の76億6,486万2千円となりました。

圖出納室(内線153)

一般会計の歳出



民生費の主な内容

▶ 心身障害者福祉費 5億3,332万3千円

障害のある人たちの日常生活や社会生活への自立支援事業として、主に、介護給付や訓練への給付などにかかる費用

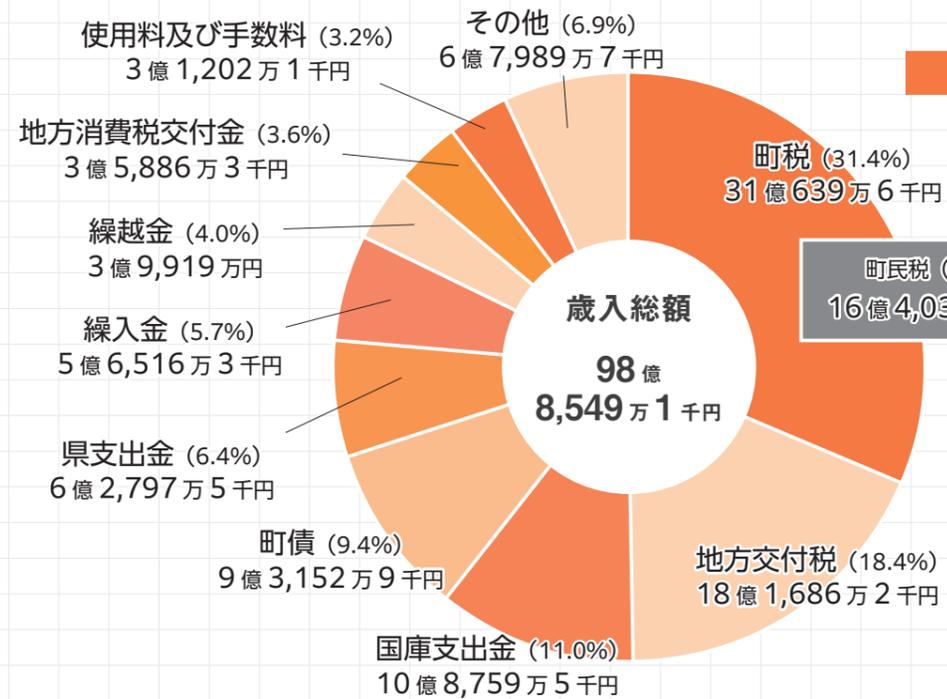
▶ 老人福祉費 3億416万7千円

介護保険事業への繰出金のほか高齢者の人々への在宅福祉事業として、主に高齢者優待運賃補助、高齢者優待入浴補助や敬老会開催などの費用

▶ 児童振興費 10億6,037万7千円

子育て支援対策として、主に、保育所への助成や運営費扶助、児童手当の支給などにかかる費用

一般会計の歳入



町税の内訳

固定資産税 (36.0%)
11億1,921万円

町民税 (52.8%)
16億4,034万1千円

都市計画税 (5.3%)
1億6,364万2千円

町たばこ税 (4.6%)
1億4,347万円

軽自動車税 (1.3%)
3,973万3千円

令和元年度の主な事業の成果

住民に開かれ自立するまちづくり

令和2年2月に「第2期王寺町総合戦略」を策定しました。これは、第1期戦略の効果検証や有識者の意見を参考に「総合計画」の基本目標に合わせ、まとめたもので、以後4年間、分野横断的に取り組みます。

快適で暮らしやすいまちづくり

王寺駅南にある2箇所の公衆用トイレを子育て世代にも優しく、女性や高齢者にも配慮した施設にリニューアルしました。

安全で安心して暮らせるまちづくり

大規模な災害が発生した際に、予想される被害を示した「防災ハザードマップ」の情報更新を最新版に刷新しました。また、WEB版のハザードマップを導入し、スマートフォンなどから容易に閲覧が可能となりました。

豪雨時の内水氾濫を防ぎ、住民の安全安心を確保するための治水対策として、貯水池整備を早期に進めるため、葛下3丁目地内の事業用地を取得しました。

健やかに暮らせるまちづくり

住み慣れた地域で安心して生活できるように「介護付有料老人ホーム」を誘致

致したほか、ICTを活用した新たな高齢者見守り事業として、連絡先が登録された「QRコード」シールの交付、がん検診の受診や、歩いた歩数に応じてポイントが得られる「健康ポイント事業」を開始しました。

人を育みみんなが学べるまちづくり

育児に不安のある産後間もない母親などへのサポートとして「産後ショートステイ・デイケア事業」を開始したほか、保護者が仕事等により家庭で看護ができない場合に一時的に保育を行う病児保育について、「西和地域病児保育室(いちごルーム)」を5町の共同事業として奈良県西和医療センター内に開設しました。

全ての小中学校の校舎にエアコンを設置し、児童生徒が快適に学べる環境整備を実施。プログラミング教育の必修化に備え、全ての小学校のパソコン教室の機器を更新し、学習活動の充実を図りました。

活力とにぎわいのあるまちづくり

町の重点観光スポット「明神山」の山頂で、眺望を楽しみながら食事や休憩ができるよう、棧敷デッキを設置。また、「達磨寺」創建の由緒ともなっている、聖徳太子と達磨大師の出会いを描いた、橋本関雪作の屏風絵「片岡山のほとり」の複製画を作製しました。